

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 22 日現在

機関番号：14601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26381203

研究課題名(和文)教科目標への到達と感性の育みを促す言語活動を視点とした美術科教育の基盤的研究

研究課題名(英文) Fundamental study of art education from the viewpoint of language activities that encourages the achievement of subject's goal and nurturing of student's sensitivity

研究代表者

竹内 晋平 (Takeuchi, Shimpei)

奈良教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：10552804

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、美術科学習における言語的活動や身体的活動等の効果と機能に着目し、それらを活用することによる教科目標への到達や人間形成の促進を解明することであった。本研究・3か年の成果は下記の4点である。

美術科教育における「質の高い意思伝達」を4カテゴリーに分け、構造化を試みた。「見せる発話」の様態と機能を明らかにするとともに、発生機序に関する検討を行った。中学校美術科学習における身体的活動の共有が美術理解にどのように関わっているのかを明らかにした。生徒の鑑賞的体験を言語化することが、アクティブ・ラーニングの視点からも有効であることが示唆された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was focusing on the effect and function of linguistic activities and physical activities in fine-art learning, and to clarify the achievement of the fine-art learning objectives and promotion of human formation by utilizing them. The results of this research are as follows.

(1) "High quality communication" in art education was divided into 4 categories. (2) Functions and states of utterances for showing in modeling activity were clarified, and the mechanism of its occurrence was examined. (3) It was clarified that students' sharing of physical activity is related to understanding fine-art. (4) From the viewpoint of active learning, it was suggested describing about art appreciation are effective for students.

研究分野：美術教育学

キーワード：美術科教育 言語的活動 身体的活動 見せる発話 アクティブ・ラーニング 鑑賞的体験

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究を着想した経緯

これまでに図画工作科を対象とした臨床的研究を行い、鑑賞活動における発話や記述を対象とした研究や、造形活動を通して学んだことに関する言語表現の分析を推進してきた。これらの研究成果からは、児童生徒が教科学習で感じた内容を言語化することによって、自ら学びを確認する傾向があることが示唆されたと考えている。このような「言語活動等の意思伝達を通じた、児童生徒にとっての学びの自覚」は、各教科学習における授業改善に効果があるのではないかと、いう着想に至った。

(2) 教育行政と教育現場の動向

平成 20 年 8 月の学習指導要領改訂告示にさきだち、中央教育審議会から「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」が示された(平成 20 年 1 月)。この答申においては、本研究において扱う「質の高い意思伝達」に関連して、「各教科等における言語活動の充実は、今回に学習指導要領の改訂において各教科等を貫く重要な改善の視点である」と述べられている。これを受け、図画工作・美術科教育においても児童生徒の発話に着目した多くの実践的研究が進められている。一方で教育現場では、国語科で追求されている「言語活動」を各教科に持ち込む(つまり、「言語活動」によって言語能力を高めることを意図する)実践が行われ、国語科以外の教科で顕著に話し合いや感想の交流が重視されるという混乱が生じている、とする指摘がある(佐藤学 2012)。

2. 研究の目的

本研究においては図画工作・美術科の教科目標への到達と児童生徒の感性の育みを促す「言語活動」等を導入した授業の構築を行い、教育現場における授業改善および教員養成・教師教育に展開するための基盤となる研究を進めた。研究期間内(3 年間)に明らかにしようとしたのは、下記の 6 項目である。

(1) 図画工作・美術科学習における意思伝達にはどのようなものがあるのかについて明らかにする。現時点の想定としては、「言語活動」のみならず、形や色による視覚的な伝達や身体性をいかした伝達等、各種の非言語的な意思伝達が存在すると考えられ、これらの類型化を試みる。

(2) 上記(1)に基づき、「言語活動」を念頭におきながらも各種の意思伝達を含めて「質の高い意思伝達」とはどのようなものなのかについての定義づけを行う。本研究における「質の高い意思伝達」とは、単に言語能力の向上を意識したコミュニケーションではなく、教科目標への到達や感性の育みの促進、つまり学びの自覚につながるコミュニケーションであると考えている。それが図画工作・

美術科学習ではどのようなものなのかについて明らかにする。

(3) 図画工作・美術科学習における「質の高い意思伝達」が学習者間で行われることを通じた、教科目標への到達・感性の育みのプロセスを明らかにする。

(4) 「質の高い意思伝達」が学習者と指導者との間で行われることを通じた、教科目標への到達・感性の育みのプロセスを明らかにする。

(5) 上記(3)(4)で示した「質の高い意思伝達」が図画工作・美術科学習内で行われるために指導者に求められる「話す力・聞く力・関与する力」を明らかにする。

(6) 「質の高い意思伝達」を支える力量形成を視点とした教員養成の方法を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究では、学習における「言語活動」をはじめとした、様々な「質の高い意思伝達」の効果と機能を図画工作・美術科学習の中に位置付けることによって、教科目標への到達や児童生徒の人間形成、とりわけ感性の育みを促進することを解明する。そのために下記のステップで研究を行った。

(1) 図画工作・美術科授業の特性を考慮しながら学習者相互間、指導者・学習者間の意思伝達にはどのようなものがあるのかについて、文献研究と臨床的予備調査によって明らかにする。

(2) 教科目標への到達と感性の育みを促進する効果があると考えられる学習者相互間における「質の高い意思伝達」の要件を明らかにするために授業方法を比較する等の調査を行う。

(3) 「質の高い意思伝達」を促すための「話す力・聞く力・関与する力」を解明するために、授業における学習者・指導者間の関わりを収録し、質的分析を行う。

4. 研究成果

授業実践・保育実践等を通して行った、本研究・3 年間の成果は下記の 4 点である。

(1) 美術科教育における「質の高い意思伝達」を 4 カテゴリーに分け、構造化を試みた。

(2) 学習者が他者に製作物を見せる際に行う発話を「見せる発話」と位置付け、その様態と機能を明らかにするとともに、発生機序に関する検討を行った。

(3) 中学校美術科学習において共同で作りだす表現活動を行う場合、学習者間の身体的活動の共有が美術理解にどのように関わっているのかを明らかにした。

(4) 生徒が美術を学習する際、鑑賞的体験によって実感的に美術を理解することにつながり、またその理解を自覚するためには記述による言語化が、アクティブ・ラーニングの視点からも有効であることが示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 6 件)

- ・芦田風馬・竹内晋平「粘土の造形活動における幼児の見せる発話 - 発話の状況とその機能に着目して - 」『奈良教育大学次世代教員養成センター研究紀要』第1号, 2015年, pp.107-115(査読有)
<http://near.nara-edu.ac.jp/bitstream/10105/10945/1/CERD2015-R13.pdf#search=%27%E8%A6%8B%E3%81%9B%E3%82%8B%E7%99%BA%E8%A9%B1%27>
- ・長友紀子・狩野宏明・宇田秀士・竹内晋平「ICT 機器が可能にする協働的鑑賞学習の試み - 中学校美術科における「美術館の展示をつくる」の実践を通して - 」, 『奈良教育大学次世代教員養成センター研究紀要』第1号, 2015年, pp.65-74(査読有)
<http://www.nara-edu.ac.jp/CERT/bulletin2015/CERD2015-R12.pdf#search=%27ICT%E6%A9%9F%E5%99%A8%E3%81%8C%E5%8F%AF%E8%83%BD%E3%81%AB%E3%81%99%E3%82%8B%27>
- ・竹内晋平・芦田風馬「粘土の造形活動における幼児の見せる発話 - その発生機序に関する検討を中心に - 」, 『奈良教育大学次世代教員養成センター研究紀要』第2号, 2016年, pp.67-75(査読有)
<http://www.nara-edu.ac.jp/CERT/bulletin2016/CERD2016-R8.pdf#search=%27%E8%A6%8B%E3%81%9B%E3%82%8B%E7%99%BA%E8%A9%B1%27>
- ・竹内晋平・長友紀子「抽象絵画をめぐる俯瞰的思考を通じた美術理解 - 中学校美術科学習における言語活動等に注目して - 」, 『奈良教育大学紀要 人文・社会科学』第65巻 第1号, 2016年, pp.103-111
http://near.nara-edu.ac.jp/bitstream/10105/11039/1/NUJ65_1_103-111.pdf#search=%27%E6%8A%BD%E8%B1%A1%E7%B5%B5%E7%94%BB%E3%82%92%E3%82%81%E3%81%90%E3%82%8B%27
- ・竹内晋平・橋本侑佳「鑑賞的体験の言語化を通じた美術の俯瞰的理解 - 中学校美術科学習におけるアクティブ・ラーニングの視点導入に基づく試み - 」, 『美術教育学研究』第49号, 2017年, pp.209-216(査読有)
- ・Takeuchi, S. (2016). Meaning of Japanese traditional-style drawing lessons in current school education. SYNNT/ORIGINS, 01/2016, 33-46 (peer-reviewed)
<https://wiki.aalto.fi/display/Synnyt/01-2016>

[学会発表](計 5 件)

- ・Takeuchi, S. (2014). Practical Study on the Role of Traditional Japanese Ink Monochrome Painting in University Lesson: Teacher Training based on the Next's Government Teaching Guidelines. 34th World Congress of the International Society for Education through Art, Melbourne(Australia)
- ・Takeuchi, S. (2014). Analysis of Learning Effect for Teacher Training on Art Education Using Text Mining: Practice based on Language Activities in a University Class. 2014 KoSEA International Conference on art Education Research Method, Seoul(Korea)
- ・芦田風馬・竹内晋平「粘土の造形表現における幼児の見せる発話 - 発話の状況とその機能に着目して - 」第37回 美術科教育学会 上越大会, 2015年, 上越教育大学(新潟県・上越市)
- ・竹内晋平・芦田風馬「粘土の造形活動における幼児の見せる発話 - その発生機序に関する検討を中心に - 」第38回 美術科教育学会 大阪大会, 2016年, 大阪成蹊大学(大阪府・大阪市)
- ・竹内晋平・橋本侑佳「鑑賞的体験の言語化を通じた美術の俯瞰的理解 - 中学校美術科学習におけるアクティブ・ラーニングの視点導入に基づく試み - 」, 第39回 美術科教育学会 静岡大会, 2017年, 静岡県コンベンションアーツセンター(静岡県・静岡市)

[図書](計 2 件)

- ・竹内晋平編『第36回 美術科教育学会奈良大会 シンポジウム記録 美術科教育におけるコミュニケーション, ことば, 言語活動』, 奈良教育大学 竹内晋平研究室, 2015年
<http://takeuchi-lab.net/information.html>
- ・隅敦・竹内晋平編『2016年度 美術科教育学会 リサーチフォーラム in 京都【記録集】「美術科教育における<学習者×教師> - 質の高い授業構築をめざして - 』, 隅敦研究室・竹内晋平研究室, 2017年
<http://takeuchi-lab.net/symposium.html>

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:

出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
竹内晋平研究室 Web サイト
<http://takeuchi-lab.net/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

竹内 晋平 (TAKEUCHI, Shimpei)
奈良教育大学・准教授
研究者番号：10552804

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

隅 敦 (SUMI, Atsushi)
富山大学人間発達科学部・教授
研究者番号：30515929

(4) 研究協力者

田中 聖子 (TANAKA, Seiko)

長友 紀子 (NAGATOMO, Noriko)

芦田 風馬 (ASHIDA, Fuma)

橋本 侑佳 (HASHIMOTO, Yuka)